

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	佐世保市子ども発達センター 児童発達支援事業 にこにこルーム		
○保護者評価実施期間	令和6年9月9日 ~ 令和6年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日 ~ 令和6年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であること。	家庭ではなかなかできない「対」の関わりを通して、お子様への理解を深め、より良い親子関係を築く場にしていただけたらと思っています。また、他の親子の方々と一緒に活動することで、関わり方のヒントを得たり、悩みや情報を共有したりすることができる場にもなるかと思います。家庭でも親子の時間を楽しんでいただけるよう、取り入れやすい遊びを紹介しています。	にこにこルームでの活動終了時の振り返りや保護者向け学習会、親子遠足など、保護者同士での情報共有や交流の場の機会を設けていますが、情報の発信や周知が不十分なところもあります。今後、情報発信や周知、交流の実施方法を検討していきます。
2	多職種による専門的支援が受けられること。 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、保健師等)	グループに応じて、適切な専門スタッフを偏りなく配置するようにしています。お子様の発達や保護者のニーズに合わせて、配置スタッフ以外の専門的支援も受けられるよう、子ども発達センター内で連携を図っています。	お子様への関わりや対応方法など、保護者の方が実践しやすいようにわかりやすくフィードバックし、1歩先を見据えたアドバイスも心がけています。
3	医療機関と同じ施設内で事業を行っていることで、連携が図れること。	日頃の様子を共有することができ、保護者からの相談や要望にも迅速に対応することができます。	保護者の声を発達センター全体で共有し合い、より丁寧な支援につなげてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向け学習会(育児講座)の活発化。	年に7回程度、保護者向け学習会を行っています。年度初めに年間予定表を配布し、開催前にもお知らせをしていますが、参加される方が少なく、十分な支援に至っていないのが現状です。	参加申し込み方法(インターネットの活用)の改善や保護者のニーズに合わせた内容での開催を考えています。
2			
3			